

せんきゅうのうどんこ病（新称）

令和6年9月、空知管内の露地ほ場でせんきゅうの茎葉に白色粉状の病徴が認められた。病勢の進展に伴い、株全体が菌叢に覆われ、葉の枯死を起こした。表生する菌は分生子柄に分生子を単性し、発病葉には後に子のう殻を多数形成した。葉に認められた菌の形態的特徴と遺伝子解析の結果から本菌は *Erysiphe* 属菌と同定された。本菌を原宿主に接種することで原病徴が再現された。以上のことから、本病害を *Erysiphe* sp. によるセンキュウうどんこ病と提案した。なお、本菌は同じセリ科のにんじん及びセルリーへの接種では病原性を示さなかった。

（中央農試・夕張ツムラ）



せんきゅうのうどんこ病（中央農試 野津原図）